

巻頭言



IGS日本支部長 福岡正巳

国際ジオテキスタイル学会を造ろうという相談がもち上がったのは1982年8月、第2回国際ジオテキスタイル会議がアメリカのラスベガスで行われたときであった。たまたま出席していた私に学会設立準備に参加して欲しいとの要請があったのでこれを受諾した。帰国後、土質工学会内に研究グループを結成し、それが日本支部の始まりになった。1983年11月パリで準備委員会が開かれ、直ちに国際ジオテキスタイル学会が発足となった。支部をつくるということにはなっていたが、理事会承認の規定がなかったので日本支部は未公認のまま活動をしていた。1985年サンフランシスコでの理事会で日本支部が承認された。このようなことで、日本支部は国際学会内の唯一の支部となった。幸いにも会員各位の熱心な活動が認められ、日本支部は模範的な支部という評判をとっている。支部長として感謝に堪えない次第である。

1990年にオランダのヘーグで第4回国際ジオテキスタイル会議が開かれ、総会でカナダのProf. R. Kerry Rowe が会長に選ばれた。会長の施政方針はIGS Newsに載っているから、よくご存じのことと思うが、委員会活動を活発にすることと支部活動を盛んにすることが最も重要ということになっている。委員会は希望者は名乗りを挙げれば誰でも参加できるか、残念ながら日本支部のメンバーは積極的ではない。支部活動については日本が模範的と評価されてはいるが、しかしながらまだ十分ではなく、会員のひとりひとりが何らかの委員会に参加していただきたいと思っている。予算が少ないので手弁当でやっていただくより仕方がない。支部活動は支部内の情報交換と相互援助が基本になるが、その他どんなことでもやっていただきたい。この学会では製造業、ユーザー、コンサルタント、学会、官界のような各分野の人達が互いに手を取り合ってジオテキスタイル、ジオメンブレン、関連製品をより有効に利用されるようにしていくというのが最も重要な点である。国内活動の他、国際活動も活発に行い、国際商品であるジオテキスタイル類の製造販売、適用に絶えず目を向け、国際的にも遅れをとらないようにしなければならない。

初代のSchaerer、2代のGiroud両会長の時代を通じて理事を務めたが、私は本年度理事の期限が切れる。この8～10年間に理事会に一度も欠席しなかったが、理事会に出ていて感じたことは、どうすれば会員にサービスできるかを常に議論していることである。他の学会ではこのような姿勢は余り見られない。特にCorporate Memberに対するサービスはいつも重要な議題になり、長い時間がそのたびに費やされた。会員はどのようなサービスを望まれているかを理事会は知りたがっている。サービスは受けるばかりでなく他の会員にどんなサービスができるかもぜひ考えていただきたい。例えば現在の適用範囲をどうすればもっと広げられるか。適用法はどう改善すればよいか等無限に取り扱うべき問題はある

筈である。

先進国では試験法、設計法が制定されている。我が国ではこの点が遅れているので、何とかしてこの方面の作業を早急に進めたい。これは会員各位の利益に直接、間接に係わりがある。世界には、ISOという国際的な基準を造る機関があり、ここでは盛んに基準作成の作業が進められている。ISOの委員会の中心メンバーはIGSの会員であり、IGSとの結び付きは即ISOとの結びつきになる。このような意味でもIGS学会を利用する必要がある。

日本支部の特徴の一つはCorporate MemberとStudent Memberが多いということである。会員の皆さんはこれらのMemberに対してどうすれば役に立てるかを考えていただきたい。

最後になったが、技術情報の内容がますます充実することを望みたい。